

Q1

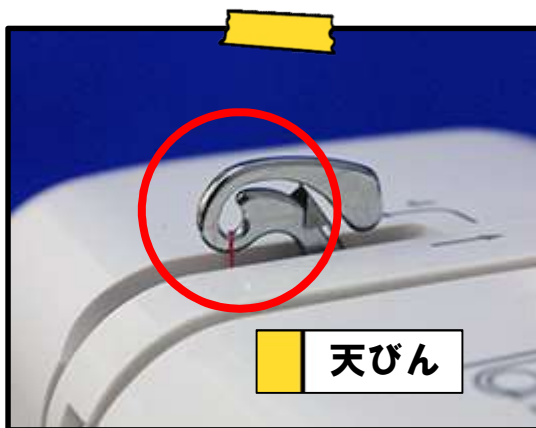
- ・ 布の裏側がぐちゃぐちゃに縫われてしまう
- ・ 縫い始めたら「ガガガ」と音がして、下糸がからまり停止してしまう



A1

## 上糸がきちんとかかっていません

- ・ 糸を全部、ミシン本体からはずします
- ・ 押さえを上に戻します
- ・ 針の位置を一番高くし、上糸をかけなおします
- ・ 天びんに糸がかかっているか、目できちんと確認してください。（※天びんが見えないミシンもあります）



天びんに上糸がかかっていないと、上糸が引き上げられないため、  
どんどん下にたまり、  
ぐちゃぐちゃにからまります！

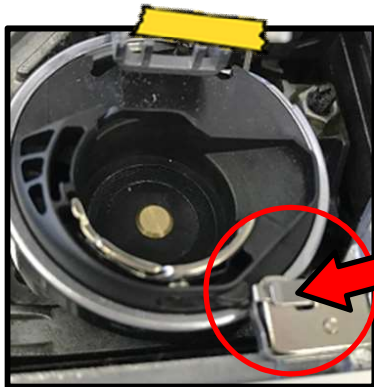
## Q2 A1をためしても改善しません

- ・布の裏側がぐちゃぐちゃに縫われてしまう
- ・縫い始めたら「ガガガ」と音がして、下糸がからまり停止してしまう



## A2 内釜がずれてしまっている可能性があります

- ・ 針板を外します。
- ・ 内釜を正しい位置にセットします。  
(取扱い説明書参照)
- ・ 針が内釜にあたったときに曲がっている可能性もあります。念のため交換してください。
- ・ 針があたって内釜に傷がついているかもしれません。ドライバーで傷をグリグリと研磨し、なめらかにすると改善します。



ここをあわせてください

Q3

下糸がからまり停止したあと、内釜が浮き、はずみ車（プーリー）がまわりません

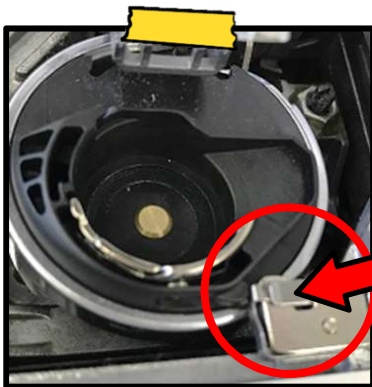


- ・まわらない
- ・途中でとまる

A3

内釜が外れるとはずみ車はまわりません

- ・ 針板を外します
- ・ 内釜を正しい位置にセットします  
(取扱い説明書参照)
- ・ 内釜にあたったときに、針が曲がった可能性もあります。念のため交換してください

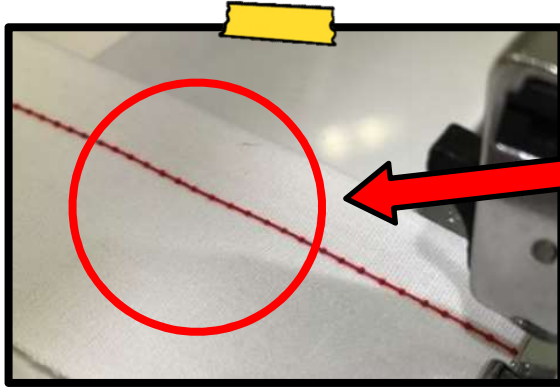


ここをあわせてください

内釜が正しく入っていれば、はずみ車を手前にまわすと外釜が時計と反対にまわります。内釜は動きません。

Q4

上糸がピンとはった状態です



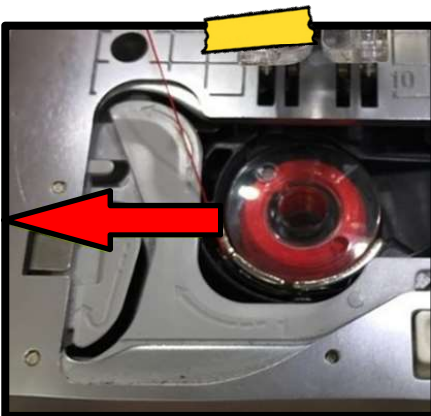
縫われていない状態

A4

下糸が正しくセットされていません



- ・ 下糸を本体から外します。
- ・ 必ずボビンを時計と反対にまわるようセットします。

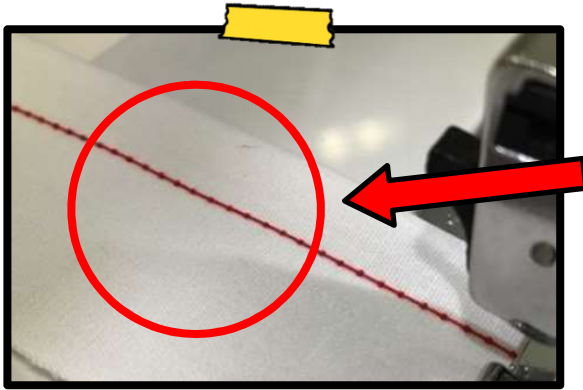


- ・ みぞにしっかり下糸をひっかけ、左に引きます。

機種によっては「みぞ」の上部に糸案内がついていて、見えにくい場合があります。上からのぞき込むように見てください。

Q5

A4で下糸を正しくセットしたのに、上糸がピンとはった状態です

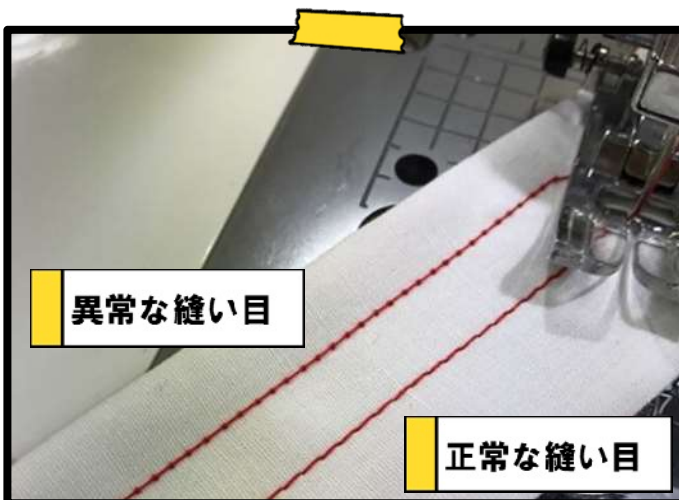


縫われていない状態

A5

上糸がどこかに引っかかっています

- 上糸をもう一度かけ直します。
- 押さえを上げ、針先から出ている上糸をひっぱります。
- スルスルとストレスなく上糸が出てくれば正常です。出てこない場合、どこで糸が引っかかっているか確認します。



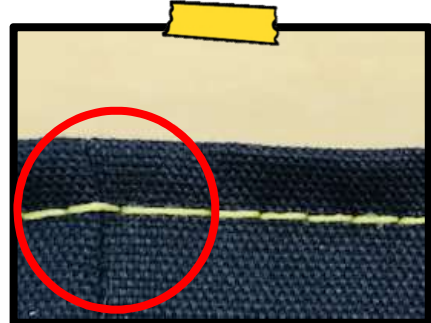
異常な縫い目

正常な縫い目

生地によって縫い目の見た目は変わります。「縫えているけれどきれいじゃない」というのはミシンの異常ではありません。

Q6

## 縫い目が飛びます



A6

## 針を交換してください

目が飛ぶのは

布に対して、針が弱い時

糸に対して、針が弱い時 起こります。

布の厚さにあった針に交換してください。

ニットを縫うときは、ニット用の針が必要です。



針が新品でも

縫い代が集まった

段差部分は目が飛びやすいです。

ゆっくり、丁寧に縫う必要があります。

「目が飛ぶ=針が下糸をすくっていない」という状態です。

針が曲がっている時に起こりやすいです。

Q7

上糸がこすれて細くなり、切れます

A7

- ・ 針を交換してください
- ・ 縫う速度をゆっくりにして  
ください

●ナイロン布などの固い布や厚地を縫うと、糸やせして、切れるときがあります

針を太くし、ゆっくり縫ってください。

●直線縫い以外は最速で縫わないでください

特に「裁ち目かがり縫い」の時に、なかなか縫い進まないため最速で縫ってしまいがちです。

押えに糸がこすれて切れる場合があります。

●針板に傷がついていませんか？

針が折れたり針板に針があたったりすると、針板に傷がつき、糸がこすれて切れる場合があります。

紙やすりなどで傷を研磨すると直ることがあります。

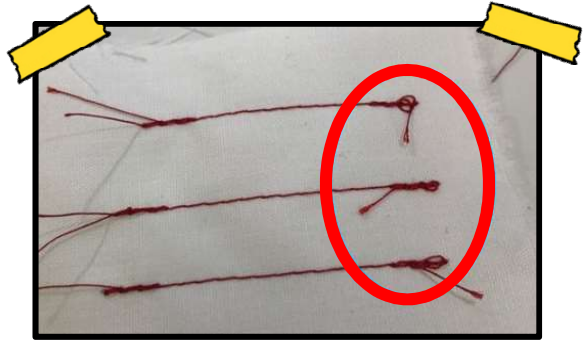
●安価な糸や古い糸をつかっていませんか？

糸の品質にはグレードがあります。

手芸屋さんで売られている上質な糸を使うと改善する場合があります。フジックス製の「シャツペスパン」という糸がおすすめです。

Q8

返し縫いすると、  
布の裏側で下糸  
がぐちゃっとか  
らみます。



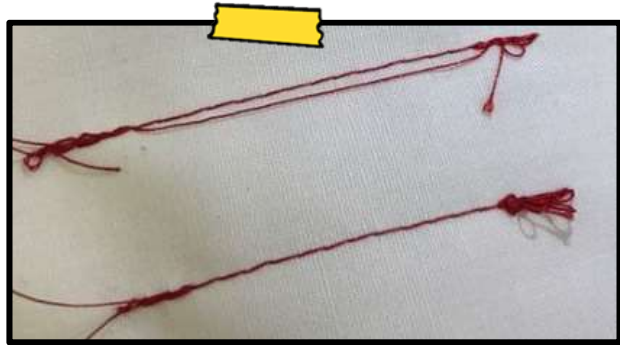
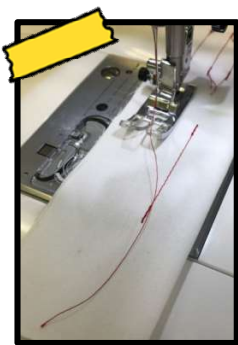
A8

故障ではありません

「下糸クイック機能」「糸切機能」がついているミシンでは  
メーカーを問わず必ず起こる症状です。

縫い始めが見える場所を縫うときは、下糸を引き出し、上糸  
下糸を押えの下でそろえてから縫い始めるとからみません。

上糸を押えず縫い始めるともっとからみます



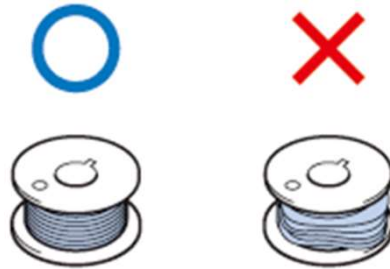
上糸を押えないで縫い始めると・・・上糸が全部下にかからまります。

絶対からませたく  
ない時は・・・  
右の写真のように、糸  
を2本そろえて縫い始  
めてください。





**Q9** 下糸を巻く時、ボビンにきれいに巻けません。下糸巻き軸に糸がからまります



**A9** 上糸がきちんとかかっています  
取扱説明書を今一度よくお読みください



←メーカーによって糸のかけ方が異なりますが、どのメーカーも、このまるいボタンのようなもの下に、キュツとしっかり上糸を入れ込むことが重要です。



※ボビンまで糸がピンとはった状態にすること！

※きちんと巻けていないボビンは巻きなおしてください。

Q10

## 針がすぐに折れます

A10

### ・縫目の長さを確認してください

厚い布を細かい縫い目で縫うと、布送りが悪くなり針が折れやすくなります。

ぞうきん等を縫うときは、細かくちょっとずつ縫わず、縫い目の長さを最大にして、グングンザクザクと縫ってください。

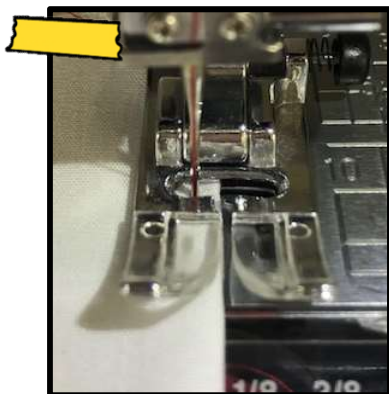
また、布に対して針が細過ぎないか確認してください。

### ・押えと送り歯に布をしっかりとらしてください

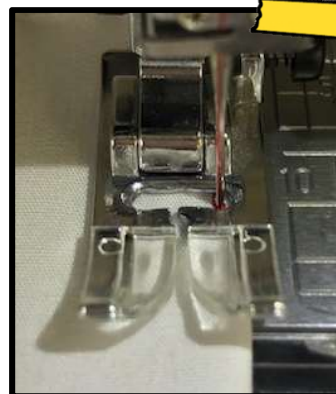
布の端にステッチを入れるために、押さえの端で布をおさえていませんか？

機種によっては針の基線を変えることができます。

取扱説明書「縫い目の幅」について確認してください。



布が少ししか送り歯にのっていない



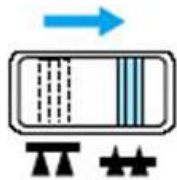
布がしっかり送り歯にのっている

布送りの悪さは針折れの原因となります。

また、縫い始めは針を布にさしてから、縫い始めてください。

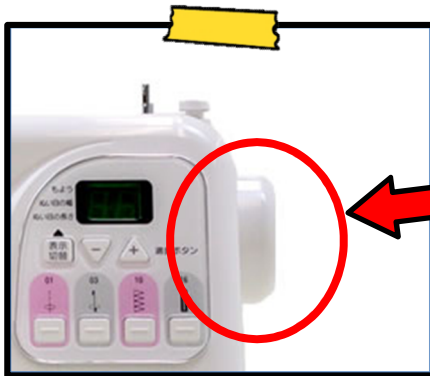
**Q11** 布が進みません（ミシンが動きません）

**A11** ドロップレバーを確認してください



ドロップレバーが『送り歯が下がっている』の位置になっていませんか？（送り歯が下がっていませんか？）

ドロップレバーが『送り歯が上がっている』の位置にあることを確認してください。



そのあと必ず、はずみ車を手前にまわします

まわさないと、送り歯が上にあがってきません！！

ミシンが動かない時は、

- ・フットコントローラーをさしたままスタートボタンを押している
- ・ボタンホールレバーが下がっている
- ・下糸巻きモードになっている

など、様々な原因がありますので、落ち着いて確認してください。  
また、厚い布に対し細かい縫い目長さで縫うと、布がつかえて進まないことがあります。